

「おめでとう黒田200勝！」



連勝で走るか！ #74

2016年7月23日対阪神戦において、7回までを5安打無得点に抑え、今季7勝目、日米通算200勝を上げた。どちらかという打線の援護が少ないチームでの活躍という印象が強いが、日本時代は本格派、メジャーにいつてからはムービングボールを操り、そして男気で広島復帰。NPB121勝、MLB79勝以上の存在感である…

という記念すべき翌日に行われた2016年K耐久東海シリーズ第3戦、天候は明け方までぐずついていたが、スタート時には雨の心配はなく、アツい日になりそうだ。

「NN-B」クラス（軽NAのノーマルクラス ビギナー）

今年から名前変更とともに、新設されたビギナークラス、開幕2戦を終えてランキングトップに行くのは#210「ZEST 遠心ミラ DXL」が開幕戦での優勝もあり35P。それを追うのが#45「インフィニティーアルト」24P、#74「アルジェンタートアルト」20Pと続く。

第3戦では6台がエントリー、シリーズ上位は参加してのバトルのゆくへは。



初表彰台2位 #448

■予選

予選トップは#74「アルジェンタートアルト」1' 12.963、またも予選クラストップ獲得。それを追うのは#210「ZEST 遠心ミラ DXL」1' 13.903、3番手#448「スぺアヘッドミニカ」1' 14.927、4番手#327「テラテラボフアルト」1' 15.491、5番手は初参加#149「K4EP アルト 149R」1' 15.598、最後尾が#45「インフィニティーアルト」1' 15.902という順で全車グリッドへ。



開幕戦以来のポディウム！ #327

■序盤

序盤からトップに行くのは#74「アルジェンタートアルト」、スタート食後の混戦こそ一旦2位に下がるがすぐさまトップを奪い返す。第2戦での優勝で昇り調子は続いているようだ

。2番手走行は#210「ZEST 遠心ミラ DXL」、開幕戦優勝のランキングトップがこの位置。3番手に行くのは#448「スぺアヘッドミニカ」初出場となった前戦が早々にリタイアだっただけに、まずは順調な滑り出しに一安心。

4番手は#327「テラテラボフアルト」、5番手#45「インフィニティーアルト」、6番手#149「K4EP アルト 149R」という序盤戦。



連続表彰台が途切れ4位 #210

■中盤

中盤でも首位キープは#74「アルジェンタートアルト」、それを追うのは#210「ZEST 遠心ミラ DXL」ほぼ1Lap差。3位走行は#448「スぺアヘッドミニカ」でこちらもほぼ1Lap差。以下は同一周回で混戦模様#149「K4EP アルト 149R」、#327「テラテラボフアルト」、#45「インフィニティーアルト」の順。まだまだレースは中盤に入ったばかりだ。



3位3位ときたが今回は5位 #45

Race Report



■終盤

残り1時間の時点で、トップを行くのは#74「アルジェンタートアルト」、2位には#448「スペアヘッドミニカ」が上がってトップとは2Lap差。3位が#327「テラテラボフアルト」。#210「ZEST 遠心ミラ DXL」はスピンからコースアウトで順位を下げてしまい4位に。

5位は#45「インフィニティーアルト」、6位#149「K4EP アルト 149R」。このペースで行けば全車完走の見込みだ。

■最終結果

結局チェッカーまでポジションを守り切った#74「アルジェンタートアルト」が連勝。2位に入ったのは#448「スペアヘッドミニカ」、開幕戦のリタイアを乗り越えて初表彰台。3位は#327「テラテラボフアルト」でこちらは開幕戦の2位に続く2回めのポディウムだ。4位はスピンなどもありながら1Lapまで追い込んだ#210「ZEST 遠心ミラ DXL」、連続表彰台が途切れたが、終盤の追い上げはさすが、それだけに中盤のミスが痛かったか。

5位#45「インフィニティーアルト」、6位#149「K4EP アルト 149R」という最終結果で見事全車完走。

■総評

ウエイトを積みながら安定した強さで終始レースを支配した#74「アルジェンタートアルト」、第2戦で予想したようにやはりシリーズはこのチームを中心に回りそうだ。

それを追いかける各チームはタイム、周回数とも非常に接近しておりまさに実力伯仲といったところ、個人的には、アルト以外少数派のマシン(ミラ、ミニカ)を使う2チームに頑張ってもらいたいところだ。

いよいよ次は4時間戦、まだまだ暑さが残るであろう秋のスパ西が天下分け目の決戦だ。



初参加で見事完走 #149



ビギナークラス



ストップ The 最速アルト！ #88



連続 2 位 #5



ハットトリックは逃すが首位キープ #10



今回は 4 位 #6



予選は好調だったが #29

「NN-E」クラス（軽NAのノーマルクラス エキスパート）

ノーマルの「エキスパート」クラスも5台出走。マシンレギュレーション的にはビギナーと変わらないが、1分10秒前後で周回する。ビギナークラスに比較すると1秒から3秒ほど速く、これがエキスパートと言われる所以である。

■予選

予選トップは#29「BLAST トウディ」1' 09.310 で今シーズン初のクラストップを奪う。予選 2 番手は#5「Banden PROJECT K アルト」が 1' 09.773 でつける、3 番手はここまで開幕 2 連勝、連続予選クラストップを続けてきた#10「FAST OUT 最速アルト」1' 09.901、40 キロのウエイトは厳しいか…

4 番手は#88「おんぼろトウディ」1' 09.907、いやいや 10 秒切りは立派です。5 番手に#6「ROCKYRACING アルト」1' 11.979 で全車がビギナークラスより速い、さすがはエキスパート！

■序盤

スタート後は大混戦だったが、一回目のスティントが終わる頃にトップに立ったのは予選 4 番手からスタートした#88「おんぼろトウディ」、それをマークするのが#10「FAST OUT 最速アルト」。3 番手走行は#6「ROCKYRACING アルト」、4 番手#29「BLAST トウディ」、5 番手は出だしにスピンなどがあった#5「Banden PROJECT K アルト」、ここから仕切り直し。

■中盤

中盤でも#88「おんぼろトウディ」が首位を守る。#10「FAST OUT 最速アルト」がほぼ同ペースでチャンス伺う。3 番手には調子が上がってきた#5「Banden PROJECT K アルト」、4 番手#6「ROCKYRACING アルト」。

気になるのは予選クラストップの#29「BLAST トウディ」、ストップという程ではないが思うようにペースが上がってこない。

■終盤

終盤で#10「FAST OUT 最速アルト」がいよいよ首位に立つが、#88「おんぼろトウディ」もすぐに抜き返すデッドヒート。3 位争いも白熱、#6「ROCKYRACING アルト」と#5「Banden PROJECT K アルト」が 10 秒ほどの差で鏖迫り合い、どちらが抜けだすか。そしてまだまだ首位まで追いつけるか。

ペースの上がらなかった#29「BLAST トウディ」だが、とうとう 74Lap でリタイヤということのになってしまった、予選クラストップだっただけにうーん残念。

Race Report



■最終結果

熱い戦いも終了、最後に笑ったのは#88「おんぼろトゥディ」約 50 秒差の同一周回のバトルを制した。2 位は#5「Banden PROJECT K アルト」が終盤追い込み、序盤のスピンのロスがなければ・・・

3 位は最後息切れしたか#10「FAST OUT 最速アルト」、3 連勝はならず。それでもしっかりと表彰台で、ランキングトップはキープ。

4 位は#6「ROCKYRACING アルト」でここまでが完走。

■総評

#10「FAST OUT 最速アルト」の開幕の連勝を止めた#88「おんぼろトゥディ」、今年に入って初の旧規格車の勝利でもある。トゥデイの意地を見た。

シリーズ中盤まで終わったところで、トップは#10「FAST OUT 最速アルト」。連勝は止まったがポイントは上積み。#5「Banden PROJECT K アルト」が少し詰めて 10P 差に、その後中団が 20P 前後でひしめく。

さあ、次戦は秋の 4 時間ポイント大収穫祭、ここでシリーズの流れはどうなるか。



トラブルに泣く



一部コース改修が行われている



序盤からデッドヒート



エキスパートクラス



NCクラス（軽NAのクロズドクラス）

開幕 2 戦を終えて”絶対王者”#25「アカミネコマル 2 トウディ」が 2 連勝、第 2 戦ではマシンをクロネコ号に換えるという事態もあったが、なんとか乗り切って、王者の力を見せつけた。

第 3 戦では、本来のウイング号が戻ってきて、いよいよ前人未到の 6 連覇に向かって再点火というところだが・・・ウエイトがフルマーク 40 キロというのが気がかり。待ったをかける宿命のライバル#66「VISCONTI トウディ」と、上り調子の#56「幸愛グループ★ミラジジーノ」など 6 台の参加だ。

■予選

予選トップは、久々に定位置に帰ってきた#25「アカミネコマル 2 トウディ」1' 08.230、これを見る限り、ウエイトの影響は少なそうに見えるが。2 番手は#56「幸愛グループ★ミラジジーノ」1' 08.341、前戦 2 位の勢いを保持して、タイムも向上、決勝ではひと暴れを目論む。

3 番手スタートは#66「VISCONTI トウディ」1' 08.814、トップタイムは譲ったが速さはさすが、逆転での勝利を狙う。4 番手#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」1' 09.099、前戦はリタイヤ、今回は雪辱なるか。

5 番手#91「BRP★KC アルトバン NA」1' 10.692、S 耐の有力チームのドライバー育成プログラムチーム。6 番手今季初出場の#950「KSS-TODAY」1' 11.829 で全車予選通過。

■序盤

スタートから先行したのは、#66「VISCONTI トウディ」、と#56「幸愛グループ★ミラジジーノ」。それを#91「BRP★KC アルトバン NA」が追いかける。#25「アカミネコマル 2 トウディ」は早めのピットイン戦略か、#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」と 4 番手争い。

初出場の#950「KSS-TODAY」はまず自身のペースを作っていく。

■中盤

今回も中盤は#56「幸愛グループ★ミラジジーノ」のターン、総合上位に名を連ねクラストップを快走。それを#91「BRP★KC アルトバン NA」や#25「アカミネコマル 2 トウディ」、#66「VISCONTI トウディ」が追う展開。これはひと波乱があるか。

5 番手は#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」、6 番手#950「KSS-TODAY」もしっかりと周回を重ねている。



堂々の初優勝！！ #56



こういうときにしっかりとポイント #66



2 戦連続で 3 位 #91



初出場で完走 #950



Race Report



■終盤

終盤でも首位キープは#56「幸愛グループ★ミラジジーノ」。新規格ピットを活かして、トゥデイ軍団を振り切れるか。これはまさに、第2戦のVTRのようだ。追い上げは#66「VISCANTIトゥディ」、第2戦ではコースアウトが響き表彰台を逃した、その轍は踏みたくない。

新規格車の#91「BRP★KCアルトバンNA」にも逆転のチャンスは十分。ここで絶対王者に悪夢、ウエイトのせいかりヤのサスペンションが破損、ドラムのアウターがついたままタイヤが外れてしまう。これで万事休す、0点リタイヤとなってしまった。

悲劇は#225「ぐっちちプリントアーツトゥディ」にも、こちらもマシントラブルでリタイヤ、同じく86Lapでレースを終了してしまう。

#950「KSS-TODAY」は4番手に上がり完走を目指す。



予選は良かったのだが #25

■最終結果

#56「幸愛グループ★ミラジジーノ」が最後まで走りきって初優勝！2位は追いつききれなかった#66「VISCANTIトゥディ」だが表彰台を確保。3位は2戦連続で#91「BRP★KCアルトバンNA」という結果。

4位#950「KSS-TODAY」は余裕を持って規定周回数をクリアしての完走。



こちらもリタイヤで残念 #225

■総評

まさかの王者のトラブル、ドライバーは「タイヤが転がっていくのを見た、(自分の)ウエイトが原因ではない」とのこと、メンテナンスを行っていてもこういうことは起こりうるが、それでも次戦は4時間耐久、もう一度各部の点検をお願いしたい。

さてこれで面白くなったのはポイント争い、満点で来た王者がポイントを伸ばせなかったことで、しっかり2位に入った#66「VISCANTIトゥディ」が同点に。さらには初優勝で意気上がる#56「幸愛グループ★ミラジジーノ」が5P、そのあと名門#91「BRP★KCアルトバンNA」が5Pという差で追うことに。4時間戦はさらに熱い戦いになりそうだ。



絶対王者のいない夏…





見事初優勝！！ #3

NOクラス（軽NAのオープンクラス）

開幕 2 連勝でダッシュを決めた#38「デモリッションエグゼトウディ」、このまま走るのか、それとも止まるのか。止めるのはどこのチームか、全 4 チームが参加。

■予選

予選トップは、#38「デモリッションエグゼトウディ」1' 05.752。Max40 キロのウエイトを積んでの予選トップ。2 番手は開幕戦で 2 位に入っている#3「CRYZYZY IDCトウディ」1' 06.331。3 番手は#34「JK ガチャピントウディ」1' 07.090、4 番手は#35「JK ブルビート」1' 09.070。全車決勝グリッドへ。

■序盤

まずトップを奪ったのは#38「デモリッションエグゼトウディ」、そして早めのピット戦略へ。その間にトップに立つのは#3「CRYZYZY IDCトウディ」、どうやらこの 2 台の争いになりそうだ。

3 番手争いは同門の#34「JK ガチャピントウディ」と#35「JK ブルビート」。こちらはトウディとビートという違いがどう出るか。

■中盤

予想通りトップ争いは#38「デモリッションエグゼトウディ」と#3「CRYZYZY IDCトウディ」の 2 台、総合トップを伺うようなペースでレースは進む。

中団#34「JKガチャピントウディ」と#35「JKブルビート」の2台の争いも白熱、白熱しすぎて、#35「JKブルビート」がコースアウトをする場面も見られるが、幸い大きなトラブルにはなっていない。

■終盤

終盤でトップを行く#3「CRYZYZY IDCトウディ」は 2 位以下との差を広げつつある。それに対し#38「デモリッションエグゼトウディ」は引き離されまいとスパートをかけるが、40 キロの重さが効くのか追い切れない。

一方で 3 位争いは#34「JK ガチャピントウディ」が優勢、#35「JK ブルビート」を引き離しつつ 2 位をも狙う。レースは残り 1 時間どんな決着を迎えるか。

■最終結果

結局最後までポジションを譲らなかった#3「CRYZYZY IDCトウディ」が見事初優勝、総合トップのチェッカーで祝福。

2 位は追い上げられたが、#38「デモリッションエグゼトウディ」が入り、3 位は同門対決を制した#34「JK ガチャピントウディ」という表彰台。4 位はポディウムまではもう一歩及ばなかった#35「JK ブルビート」。



しっかりと 2 位を確保 #38



2 戦連続表彰台 #34



表彰台まではあと一歩 #35

Race Report



■総評

黎明期から参加されていた(マシン等は変わってはきているが) #3「CRYZYZY IDC トウディ」が初優勝で、おめでとうございます。それもファステストラップの勲章付で、速さも十分に発揮した。

シリーズのゆくへは#38「デモリッションエグゼトウディ」がしっかりポイントを持ち帰り 55P として首位を堅持。

次なる戦いは 4 時間戦、人もクルマも厳しい戦いを征するのはどこのチームか。





終わってみれば盤石の3連勝！ #330



混戦の2位争いを制した #69



3位滑り込みで連続表彰台 #28



今回は表彰台に乗れず #93

TCクラス（軽過給機のクローズド）

開幕から連勝をしているのはこのクラスも同じ、昨年の王者#330「DIXCEL コンパノミラ」、このまま怒涛の3連勝となるか。ちなみに2連勝できた他のクラスはすべて連勝が止まっている。

#93「藤枝マリンダイビングアルト」と#28「BLAST ヴィヴィオ」あたりが、STOP ザミラの有力候補か。それらを含めた全6台が激戦の舞台へ。

■予選

予選トップは#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'05.841、今季初の予選首位。2位は開幕戦以来の出場#69「モモヤマレーシングアルト」1'05.903、3位に#28「BLAST ヴィヴィオ」1'06.244が予選トップ3。

4位以下は#330「DIXCEL コンパノミラ」1'06.302、今回も予選は控えめという勝ちパターンに持っていくのか。5位#112「白須賀会カプチーノ」1'08.445、6位は#95「KHK KEI」1'09.740。相変わらずバラエティ豊かな車種、アルトが世代違いという見方をすると、同じ車種が一つもない。

■序盤

最初のスティントは順当に#93「藤枝マリンダイビングアルト」、#69「モモヤマレーシングアルト」、「BLAST ヴィヴィオ」がトップ争い、「BLAST ヴィヴィオ」は早めのピットイン、それにかわって#330「DIXCEL コンパノミラ」が上がってくる、ここではやくも勝ちパターン発動か。

5番手走行#112「白須賀会カプチーノ」、6番手#95「KHK KEI」。ちなみにウエイトは連勝中の#330「DIXCEL コンパノミラ」にMax40キロだ。クローズドとはいえターボ車だから多少のウエイトは関係ないという向きもあるが、重さが効くのは加速時だけではない、この先ブレーキやタイヤにはじわじわと…

■中盤

中盤はピット戦略が入り乱れての混戦模様、「BLAST ヴィヴィオ」を筆頭に、5台が1Lap 差でバトル。まだこの時点では#330「DIXCEL コンパノミラ」はトップ集団の中ごろ。

この第3戦はペナルティが少ない。第2戦までは少しペナルティなどが目についたが、今回はクリーンな戦い。気を付けば減られせるもの、このまま続けてほしい。

■終盤

ゴールまで残り一時間、さあいよいよ#330「DIXCEL コンパノミラ」がトップに上がってきた、実にレース巧者な戦いっぷり。2位に2Lap ほどのギャップを築きレースをコントロール。

2位以下はほぼ同一周回で混戦、#28「BLAST ヴィヴィオ」、#69「モモヤマレーシングアルト」、#93「藤枝マリンダイビングアルト」いずれも実力伯仲、どこがぬけ出すか。

5番手#112「白須賀会カプチーノ」、6番手#95「KHK KEI」も1Lap ほどの差、いつ順位が変わっても不思議ではない。

Race Report



■最終結果

終わってみれば、見事勝ちパターンに持ってきた#330「DIXCEL コンパノミラ」が開幕 3 連勝、新規格のピットルールを存分に活かした作戦がまたも的中。混戦の 2 位争いから抜けだし#69「モモヤマレーシングアルト」が 2 位。そして 38 秒差で振り切って、表彰台を確保したのは#28「BLAST ヴィヴィオ」。4 位は惜しくも届かなかった#93「藤枝マリンダイビングアルト」。5 位は一つ順位を上げた#95「KHK KEI」、6 位は#112「白須賀会カプチャーノ」で全車完走。

■総評

第 2 戦の総評で、このまま走りそうだと書いた#330「DIXCEL コンパノミラ」が、再現 VTR を見るような展開でハットトリック。これで満点 60P。
3 戦連続の#28「BLAST ヴィヴィオ」、ここはひとつ優勝がほしい。それは#93「藤枝マリンダイビングアルト」にもいえる。
そんな貴兄たちに控えるのは 9 月の 4 時間戦、ポイント増量で、一気に差を詰めるチャンス！
さあさあ、今から準備ですぞ。



こちらあと一步届かず #95



孤軍奮闘カプチャーノ #112





シーズン 2 勝目！ #32



逆転にかけたのだが #23



T Oクラス（軽過給機のオープンクラス）

#32「爆走あばれ馬ミニカ」、#23「Jatsun アルト」に。今回はこの 2 台のみの参加だが、今季これまではともに 1 勝ずつ、どちらも譲れない戦い。

■予選

ポールを奪い返した#32「爆走あばれ馬ミニカ」が 1' 04.499、今季初ポール。意地でその横につけた#23「Jatsun アルト」は 1' 04.995。この 2 台がフロントローを分け合う、さすがはターボ改造車クラス、レースの華。

■序盤

やはり序盤から 2 台が競り合う。第 2 戦とは逆に#32「爆走あばれ馬ミニカ」が先行。#23「Jatsun アルト」はそれを追う。

■中盤

中盤で異変、ピットに入ってきた#23「Jatsun アルト」が屋根下でジャッキアップ。スタッフがフロントのブレーキを覗きこむ。どうやらブレーキトラブルのようだ。このままの走行は無理と判断し、71Lap でレースを終えた。

■終盤

一人旅になった 32「爆走あばれ馬ミニカ」はゆうゆうレースをコントロール、当然のようにラップボードの一番上にゼッケンを刻む。

■最終結果

ところが、#32「爆走あばれ馬ミニカ」にもトラブルが、終盤 3 速を失い、4 速のみでの走行。かつての A.セナのようにマシンをコントロールしなんとかゴール。総合優勝こそ他のクラスに譲ったが、無事にマシンをフィニッシュまで持ってきた。

■総評

これでポイントは 55P で、チャンピオン奪回のストーリーは描けたか。しかし、次戦は 4 時間戦、これまで以上にマシンやドライバーには“くる”レース。特に大きなパワーと熱を発するチューンドターボ車はなおさら、それでも速さでぶっちぎるオープンクラスは魅力的だ。

